

### 《曲げ強度試験》

曲げ強度試験は、平板を図-1のように表面をしたにして据え、スパン（L）を共同検査規約による値にとり、スパンの中央に荷重を加えて行い、製品曲げ強度荷重規格値表に規定する曲げ強度荷重において、ひび割れの有無を確認する。

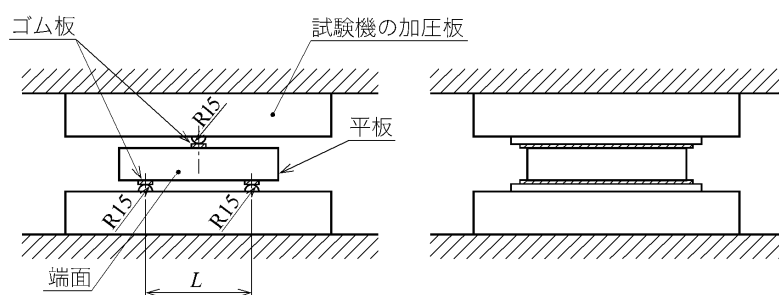
曲げ強度試験を行うときは、平板の加圧面及び支持面にゴム板を挿入し、荷重が均等に分布されるようにしなければならない。

曲げ強度は、次の式によって、数値は有効数字 3 けたに丸める。

なお試験機は、JIS B 7721 に規定する 1 等級以上の試験機又はこれと同等以上の許容値をもつものを使用する。

$$\sigma = \frac{3}{2} \times \frac{L}{b \cdot d^2} \times F$$

ここに、  
 $\sigma$ ： 曲げ強度 (N/mm<sup>2</sup>)  
 $b$ ： 普通平板, 透水平板の有効幅 (mm)  
 $d$ ： 平板の厚さ (mm)  
 $L$ ： スパン (mm)  
 $F$ ： 最大荷重 (N)



単位 mm

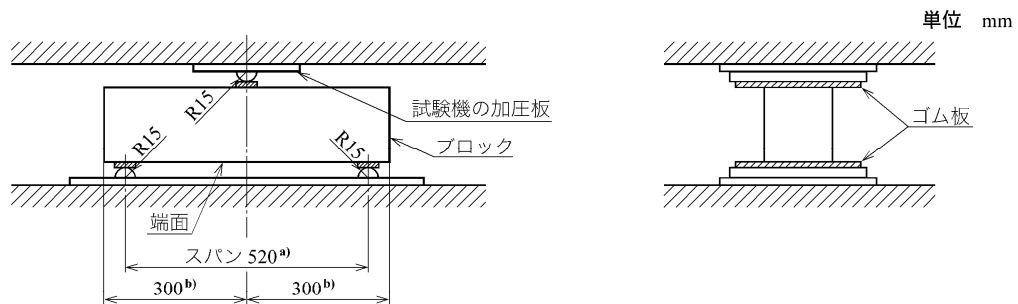
推奨仕様 B-1 図 1—曲げ強度試験方法

### 《曲げ強度試験》

曲げ強度試験は、ブロックを図-2 のよう据付け、スパン (L) を共同検査規約によるげ試験値にとり、スパンの中央に荷重を加えて行い、製品曲げ強度荷重規格値表に規定する曲げ強度荷重において、ひび割れの有無を確認する。

曲げ強度試験を行うときは、ブロックの加圧面及び支持面にゴム板を挿入し、荷重が均等に分布されるようにしなければならない。

なお試験機は、JIS B 7721 に規定する 1 等級以上の試験機又はこれと同等以上の許容値をもつものを使用する。



注 <sup>a)</sup> 推奨仕様 B-2 表 3 の寸法 (l) が 2 000 mm の場合には、1 000 mm とする。

<sup>b)</sup> 推奨仕様 B-2 表 3 の寸法 (l) が 1 000 mm の場合には、500 mm、2 000 mm の場合には、1 000 mm とする。

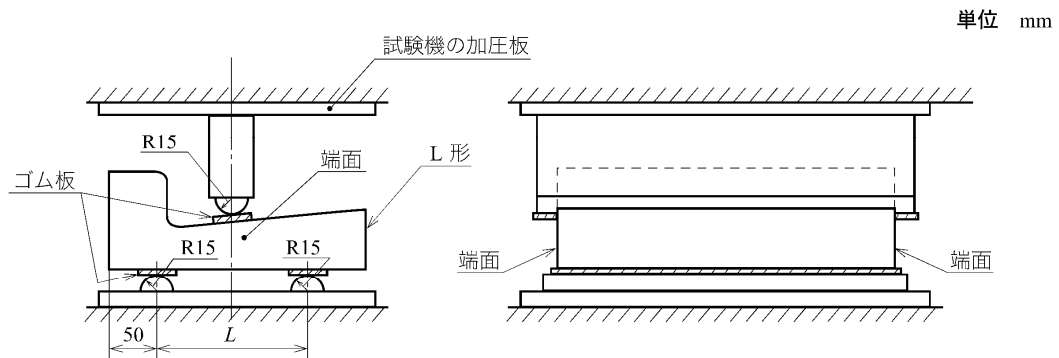
推奨仕様 B-2 図 4-曲げ強度試験方法

### 《曲げ強度試験》

曲げ強度試験は、L 形を図-3 のよう据付け、スパン (L) を共同検査規約による値にとり、スパンの中央に荷重を加えて行い、製品曲げ強度荷重規格値表に規定する曲げ強度荷重において、ひび割れの有無を確認する。

曲げ強度試験を行うときは、L 形の加圧面及び支持面にゴム板を挿入し、荷重が均等に分布されるようにしなければならない。

なお試験機は、JIS B 7721 に規定する 1 等級以上の試験機又はこれと同等以上の許容値をもつものを使用する。



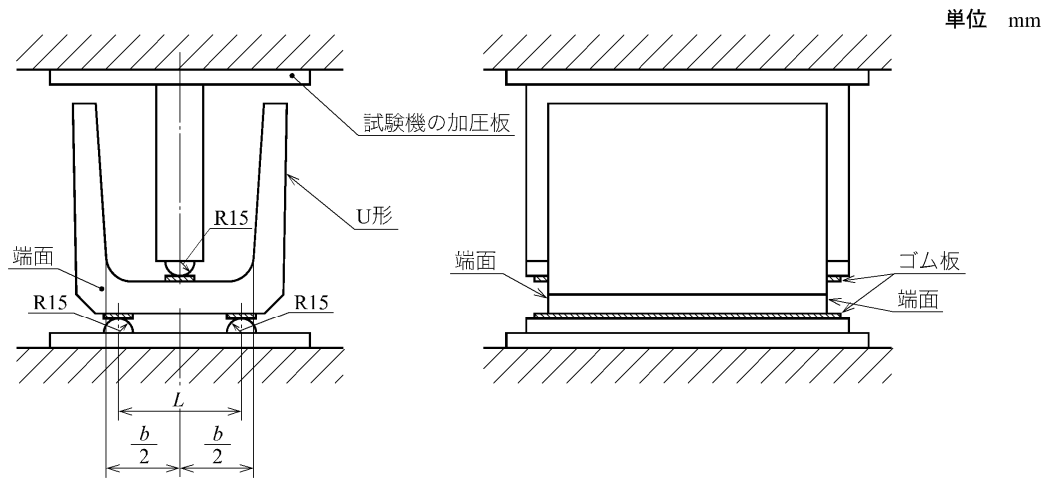
推奨仕様 C-1 図 1—曲げ強度試験方法

### 《曲げ強度試験》

曲げ強度試験は、側溝を下図のような据付け、スパン（L）を共同検査規約による値にとり、スパンの中央に荷重を加えて行い、製品曲げ強度荷重規格値表に規定する曲げ強度荷重において、側溝の端面に幅 0.05mm を超えるひび割れの状態を調べる。

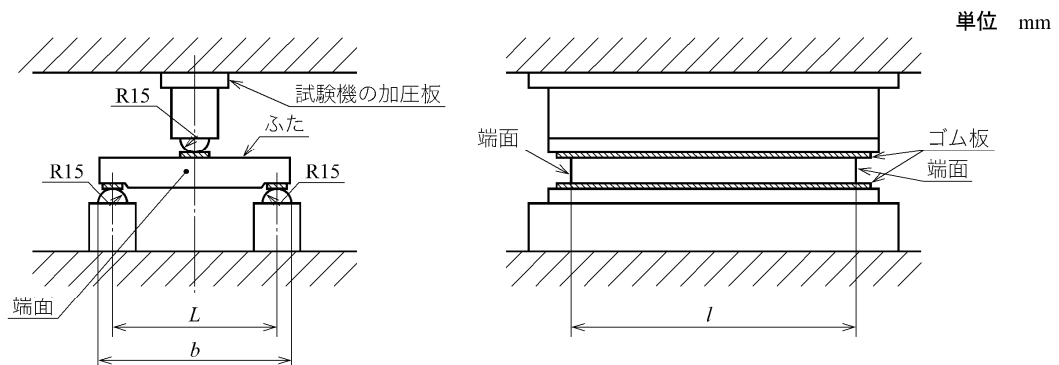
曲げ強度試験を行うときは、側溝の加圧面及び支持面にゴム板を挿入し、荷重が均等に分布されるようにしなければならない。

なお試験機は、JIS B 7721 に規定する 1 等級以上の試験機又はこれと同等以上の許容値をもつものを使用する。



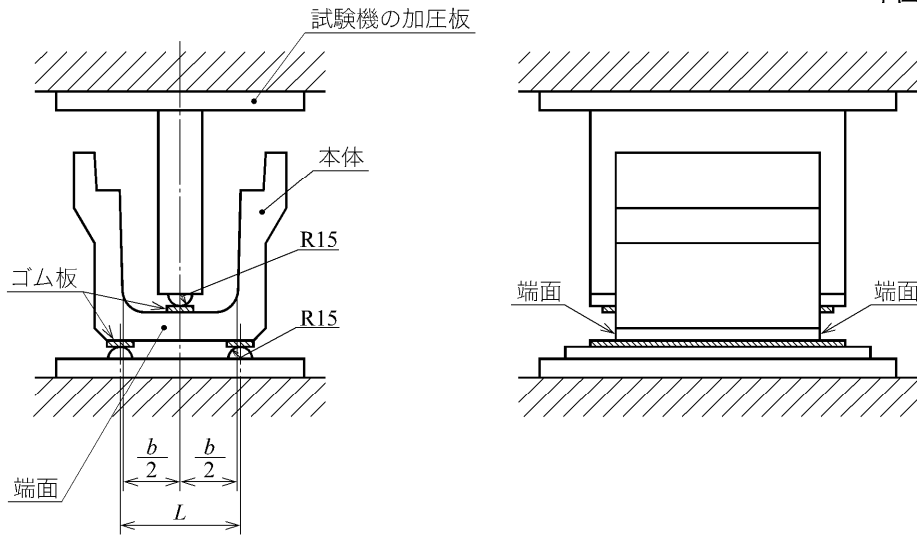
推奨仕様 E-1 図 1—側溝の曲げ強度試験方法

推奨仕様 E-2 図 1—側溝（本体）の曲げ強度試験方法



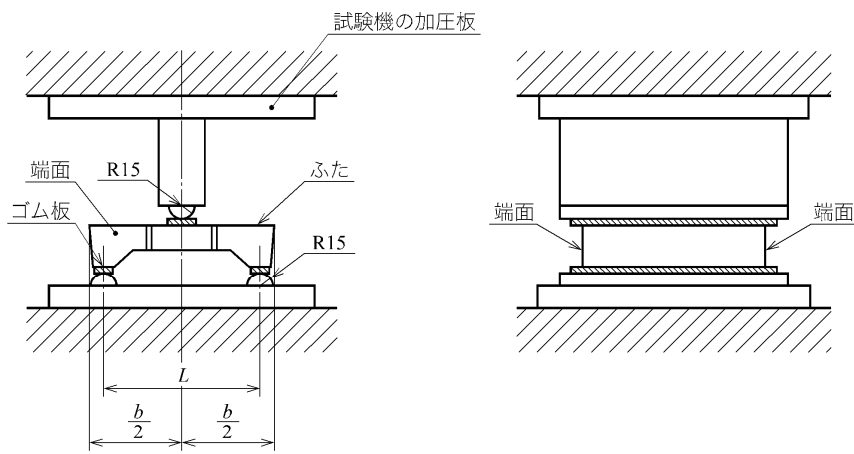
推奨仕様 E-2 図 2—側溝（ふた）の曲げ強度試験方法

単位 mm

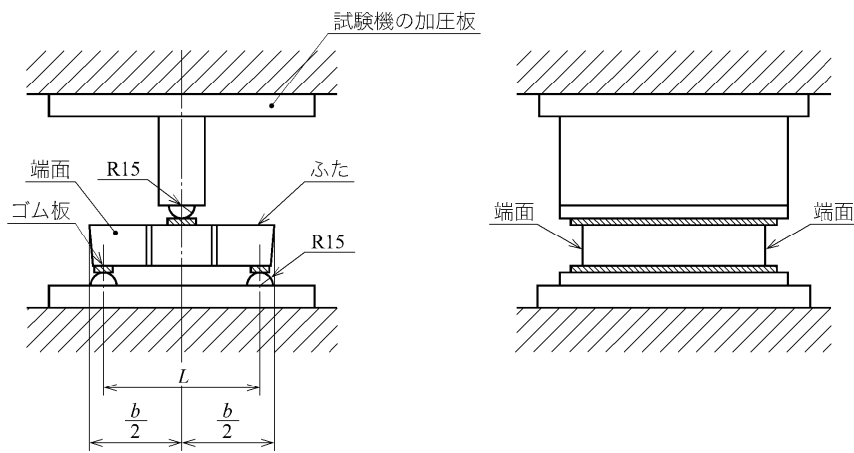


推奨仕様 E-3 図 1—側溝（本体）の曲げ強度試験方法

単位 mm



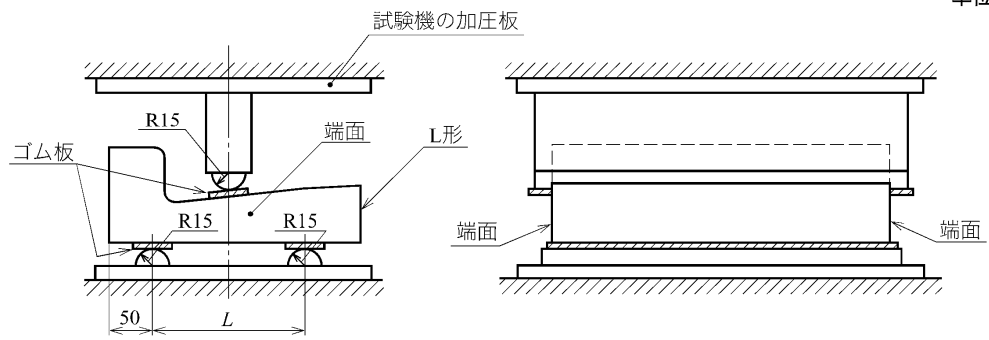
(1種)



(3種)

推奨仕様 E-3 図 2—側溝（ふた）の曲げ強度試験方法

単位 mm



推奨仕様 E-4 図 2- 曲げ強度試験方法